

平成29年度 第1回甲賀市総合教育会議（議事録）

1. 開催日時 平成29年9月27日（水）
開 会 10時00分
閉 会 11時50分
2. 開催場所 市役所水口庁舎会議室301A
3. 議題 (1) 甲賀市教育振興基本計画（後期計画）の成果・課題について
(2) 甲賀市教育大綱の改定について
4. 出席委員 岩永市長、山下教育長、山田教育長職務代理者、藤田委員、今井委員、松山委員
5. 出席事務局員 総合政策部長、市長公室長、政策推進課長補佐、同課係長
教育部長、教育次長（指導担当）、教育次長（学校教育担当）、教育総務課長、
同課長補佐
6. 傍聴者 1名
7. 議事の内容 別紙のとおり

○事務局 ただ今から、平成29年度第1回甲賀市総合教育会議を開会いたします。
まず初めに、甲賀市市民憲章を唱和いたします。恐れ入りますが、ご起立をお願いいたします。

【全員起立し市民憲章唱和】

ありがとうございました。ご着席ください。
開会にあたりまして、本会議の議長でもあります岩永市長がご挨拶を申し上げます。

○岩永市長 皆様、おはようございます。委員の皆様方には、ご多用にもかかわらずご参集を賜り誠にありがとうございます。また、日頃から本市の教育振興にご尽力をいただいておりますこと、重ねてお礼を申し上げます。

運動会が各小学校、中学校で開催されました。台風のため延期された小学校が多数出ているなか、教育委員の皆様方にはそれぞれ小中学校に応援にかけつけていただきました。私も小学校、中学校の運動会にまいりまして、保護者の皆さんや地域の皆さんの前で良いところを見せようと頑張っている子どもたちの姿を見て、教育行政、子どもの育ちに対して、しっかりと見守り、さらに力を入れていくべきだと改めて認識いたしました。

本市が本年6月に策定しました第2次甲賀市総合計画は、人口減少に立ち向い10万人都市を目指すというテーマを設定し、子育て・教育、福祉・介護、地域経済の3項目を掲げ、特に子育て・教育については、子どもたちがいきいきと健やかに安心して夢を追い続けることができるように、教育・子育てナンバーワンを目指していくという指針を掲げております。子どもたち一人ひとりの努力する力、挑戦する力をしっかりと伸ばしていくために大変重要な分野であると考えています。また、地域経済やまちづくりの面からも、今後の甲賀市の未来を担っていただく人材の育成は、長い目で見ると甲賀市にとっては大切な課題でございます。

本日の総合教育会議では、甲賀市教育大綱の改定に向けてご協議を賜りたいと考えております。この教育大綱は、今後策定いたします第2期甲賀市教育振興基本計画のベースとなり、本市が教育ナンバーワンを目指すうえで大切な指針となるものです。委員の皆様方からさまざまなご意見、アイデアをいただき、本市ならではの甲賀流の大綱としてまとめていきたいと考えておりますので、活発なご議論をお願い申し上げ、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

○事務局 それでは早速、本日の議題に入ります。甲賀市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、議長は市長が行うこととなっておりますので、市長、議事の進行をお願いいたします。

○岩永市長 それでは、議題に入ります。協議事項の①甲賀市教育振興基本計画（後期計画）の成果・課題について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 資料3に基づきまして、甲賀市教育振興基本計画（後期計画）の成果・課題について説明いたします。

【甲賀市教育振興基本計画（後期計画）の成果・課題について説明】

○岩永市長 事務局からの説明のとおり、次のステップに進んでいくためのPDCAという意味でも、甲賀市教育振興基本計画（後期計画）の反省点と成果をしっかりと整理しておくことが必要です。この内容について、ご質問、ご意見をお願いします。

○山下教育長 最近発表された全国学力・学習状況調査の結果は、本市にとって重要な一つの要素であると思います。こうか授業術「5箇条」などを使いながら確かな学力の定着を図る取組がされていますが、まだいくつか大きな課題が残っているということであると思います。

もう一点、小中学校再編計画が出されたとき、未来にはばたけるような力を備えた中三生を育成するということで、小中再編とともに小中連携の課題があると思います。

確かな学力の面と小中連携をどのような形で課題として捉えていくかについて補足説明をお願いします。

○事務局 全国学力・学習状況調査の結果については、大きな原因が見当たらず、授業の展開ではないかと思っていますが、他市とそれほど授業内容に差が見られないのが現状です。

そのなかで、授業の展開を整理して、子どもたちが十分に力を発揮できるように、こうか授業術「5箇条」に昨年は特に力を入れてきました。「5箇条」の一つ目「こどもとめあての共有」は市内でほぼ確立をしています。今年度の学力調査において、全国よりも滋賀県、滋賀県よりも甲賀市がめあてが共有できているという結果からも、かなり成果が上がっていると言えます。ただ、2条の「うんと考えひとり学び」と3条の「かんがえつなげて話し合い」は、全国より低いレベルなので、こうか授業術「5箇条」をしっかりと子どもに定着させていけば成果は上がるのではないかと考えています。

また、学校だけで取り組むのではなく、保護者の方や地域の方とともに、確かな学力の定着を進めていきたいと思っています。その一つの方策がこうか授業術「5箇条」であり、これは9年間を見通した小中連携・一貫教育にもつながっていきます。小学校の教育が中学校の教育につながるように、中学校の先生方が小学校の授業に入って、9年間を通して子どもたちの力をつけていきたいと思っています。まだ始まったばかりなので、次の教育大綱に活かしていきたいと思っています。

○岩永市長 学力については、しっかりときめ細かに状況を分析しながら取り組むとともに、加えて外国籍の児童も多い地域ですし、そこへの支援が甲賀市全体の底上げに関わってくると思います。

○山田教育長職務代理者 教育委員会において一昨年度から小中学校への適正規模の取組を始めていますが、地域によりかなりの温度差があります。どういう形で進めていくかということも大きな課題であると思います。事務局のお考えをお聞かせください。

○事務局 小中学校再編に向けた適正規模については、各地域で検討協議会を立ち上げていただいて、よりよい保育・教育について地域の皆さんに考えていただいております。できるだけ地域の皆さんの考えを確認して、合意の上で進めていきたいと考えています。

○山田教育長職務代理者 住民に投げかけて、放っておくのではなく、お互いに連携を保ちながら情報交換をしていくという形で慎重に進めていただきたいと思います。

○岩永市長 大変貴重なご意見だと思います。地域のなかで検討いただくことは、子どもの育ちの面でも、市の財政計画をしっかりと示していくという意味でも大切だと思います。

○藤田委員 再編にあたってアンケートを取ってからしばらく時間が経ち、新たな要素が出てきているのではないかと思います。今の子育て世代のニーズをもう一度捉えていただき、甲賀の子どもたちにとって何が必要なのかというところを、未来を切り拓くという部分も含めて、適切かどうか議論していただければと思います。

○岩永市長 年々、市民のニーズや価値観が多様化しているなかで、小中学校再編をいかに各地域で考えていただくかということは、世代によって考え方も違いますし、しっかりと地域に入り込んで意見聴取が必要だと思います。

○山田教育長職務代理者 市民全体が参加できる文化・スポーツを推進している文化スポーツ振興課と競技団体を総括している一般社団法人甲賀市スポーツ協会の位置づけを議論していただきたいです。スポーツ協会に対して教育委員会からかなり大きな補助金が出ていますので、それが市民全体の文化スポーツ振興にどのように寄与しているのかという問題もあります。

○今井委員 外国籍の児童が多いので、母語支援員を派遣するのは大変良いことだと思います。さらに、甲賀市に住んでいる子どもが語学勉強のように努力をしながら話すことで外国に親しむような特徴あることができないかと思います。

先生にとって外国籍児童が多いなかで教えていくのは大変な一面、言葉が不自由である外国籍児童に丁寧に話すことによって、基本的なところから勉強できる体系がつかれるのではないかと。大阪の能勢町の学校では特別支援学級と通常学級を一つの授業でやった結果、基本がしっかりと学べて学力が上がったというデータがあります。それは、外国籍児童が多いところでどういう授業をやっていけば良いのかを考えていくヒントになると思います。

○山田教育長職務代理者 あいコムこうかの番組内容が充実してきましたが、加入世帯を増やさなければ

ば効果は薄いと思います。市のホームページに情報を出しても高齢者はなかなか見られないので、テレビが一番良いと思います。70%ぐらいの市民に見てもらおうと非常に効果があると思うので、そういう観点でやっていただけたらと思います。

○岩永市長 あいコムこうかは、市民の方と教育的なコミュニケーションを行う一つのツールでもあります。地域住民の皆さん方により広くご覧いただけるよう、筆頭株主として甲賀市もしっかりと提案していきたいと思います。

○松山委員 子どもたちの学力の定着に成果を上げた、こうか授業術「5箇条」をさらに進めていけるように、教職員・保育士の資質向上に力を入れていただきたいと思います。

○岩永市長 子どもの学びを支える要素として、ICTを含めてハード面は一定方向性が見えてきたので、先生の資質といったソフト面にも力を入れていくことが求められます。働き方も含めて、総合的に先生の働く環境を支援していくことも大切だと思います。

○山下教育長 どの教員も良い授業をしたいという思いをもっていますが、ばらばらではなく一本の筋で、こういうやり方でいったらどうかという、教員同士の研修の場など練り上げる場が必要だと思います。学力テストの得点の高い他市では、若い先生がどのようにその地域で育っておられるのかということが話題になっています。甲賀市においても教員の世代交替が進むなか、教員総体の力が伸びていくような取組、工夫が大事だと思います。

○山田教育長職務代理者 今の先生は時間がないので、子どものことを思ってあげる余裕も生まれず、管理職や保護者と接する時間も削られています。時間の余裕ができるような就業体制に変えていかなければ、先生の資質向上に力を入れられないと思います。

○岩永市長 教育の充実には、先生をとりまく環境の整備、改善も課題であるということですね。それでは②に移りまして、甲賀市教育大綱の改定について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 資料4に基づきまして、甲賀市教育大綱の改定について説明いたします。

【甲賀市教育大綱の改定について説明】

○岩永市長 教育目標までのページは、最終的には文章になりますが、今回は骨子についてご議論いただくため、文章を構成する内容を箇条書きで示し、また、赤字部分は、以前の大綱に変更・追記した部分であるという説明でありました。

まず、「ひと」という言葉は、前は「ひと」と「人」を使っていましたが、今回はあえて漢字で「人」を使った、その根拠を教えてください。

- 事務局 特にございませんで、「人」に統一しております。
- 山下教育長 表紙の「未来を切り拓く人づくりをめざす」というタイトルについて説明させていただきます。ここで言う「未来」とは、子ども達一人ひとりが、自分自身の将来についても、地域の将来についても、しっかりと考えられるような人に育ってほしいという夢を込めております。
- 岩永市長 子どもたちが自分自身の未来を切り拓いていくことが、地域の未来を切り拓いていくことにもつながっていくという意味もあろうかと思ひます。
- 山田教育長職務代理者 「はじめに」は、前の教育委員会会議で検討したときと内容は変わっていませんか。
- 山下教育長 順番や表記の仕方で変わったところはありますが、説明部分は同じです。
- 今井委員 (4)「取り組むべき課題」の三つ目の「子どもの貧困などの格差の固定化」について詳しい説明をお願いします。
- 事務局 取り組むべき課題は、国の第3期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方を引用しました。家庭の社会経済的背景と子どもの学力には相関関係がみられ、各教育段階において影響を与えており、最終学歴により生涯賃金に大きな差があることから、子どもの貧困、格差の固定化を防ぐような施策が必要であると考えています。
- 山田教育長職務代理者 こういうことを踏まえて文章化するということですね。
- 山下教育長 盛り込む内容が多いので、こういうものも一つの視点として文章化をしていきます。
「はじめに」は、市長の思いも入れていただく必要もあろうかと思ひますので、事務局で作成した原案に市長独自の言葉も盛り込んで文章化する、そういう段取りも検討していただけたらと思ひます。
- 岩永市長 3ページ目の「教育方針」で、学力等の部分は、「自らの未来、社会の未来をたくましく切り拓く力を育む」に入っていると考えるよろしいですか。
- 事務局 はい。それと、2番目の「教育による人づくり」にも含まれます。
- 岩永市長 各課の課題と成果を、ここで骨子として網羅していくということですね。

○松山委員 4 ページ目の教育目標 1 の二つ目の「一人ひとりを確実に伸ばす教育の推進」と赤字の三つ目の「主体的で深い学びをとおして、確かな学力を身につける」はよく似た内容だと思います。ここは文章化するときの一つになると思います。

○事務局 今回は「主体的で深い学びをとおして」の「主体的」というあたりを入れたかったので追記しました。文章化するときにはここをまとめたいと思います。

「一人ひとりを確実に伸ばす」というのは当然の話かと思います。追記した「主体的で深い学び」は、平成 3 2 年度から改定される学習指導要領のキーワードなので、今回入れたいと思っています。

○山下教育長 「アクティブラーニング」から今は「主体的で深い学び」が提唱されるようになり、それが一つのキーワードになっています。大人も子どもも自ら学ぶ力なり学習習慣が、「主体的」というあたりに入っているのだらうと思います。

○藤田委員 「一人ひとりを確実に伸ばす」のは、学力だけではなくて、知識プラス知恵という部分で、生きる力は一人ひとり持っていてそれぞれ違うので、そこを引き出すのが教育だと思います。一人ひとりを確実に伸ばしていかなければならないという観点は必要だと思います。

○山田教育長職務代理者 「ともに生きる」を表現する文章を入れてはどうかと思います。

○事務局 教育目標 1 の赤字部分の下 2 項目のなかで、「学び、育ち、ともに生きる」を表しています。学校を卒業して、家庭、企業、地域のなかで連携して生きていく、また地域人材の活用でいろいろな生涯学習をしていく、この二つが関連をしています。

○山下教育長 「地域との連携を強める」を「地域の連携」にすれば、学校、園、家庭、企業、地域それぞれが相互に連携をすることになります。

○岩永市長 文章化するときは、ニュアンスについても一考をお願いします。

○山下教育長 教育目標 3 は、郷土への誇りを持って、世界に発信するまでに、市民なり子どもたちが誇りを持てるほど地域のことをしっかり知るといふ、その前段階があると思います。それが「地域学」ですが、教育委員会としてどういうことをしていかないといけないのか、社会教育も含めて、甲賀市民に豊かな情報を発信する取組が必要だと思います。

○藤田委員 「文化・芸術・スポーツにおいて世界に誇れる人材の育成」は、底辺を広げて全体を上げたいのか、突出した人を育てるのか、わかりやすい表現を工夫してはどうかと思います。

- 事務局 底辺を広げる、個性を高める、その両方の意味を込めています。表現は検討します。
- 松山委員 教育目標3の「スポーツにおいて世界に誇れる人材の育成」と教育目標2の「スポーツの振興と健康な体をつくる」と、スポーツが二つに分けて記載されています。その違いをご説明ください。
- 事務局 目標2は、子どもたち全体の体づくりということで広い範囲です。目標3は、広げるけれども特化した部分も必要だという意味で考えています。
- 岩永市長 「世界に誇れる人材の育成」は、大きな目標なのでかなりの取組が必要になってくると思います。そのあたりはしっかりとした意図をもって記述しているものと理解しています。
- 事務局 今年度から金の卵プロジェクトに取り組んでいます。一流のアスリートや芸能活動をしている方と子どもたちが接する機会をつくって、世界に発信できる人になってもらいたいと考えています。
- 岩永市長 教育目標3の「文化・芸術・スポーツにおいて世界に誇れる人材の育成」が、6ページ、7ページの施策になるとトーンダウンしたように思います。
- 山下教育長 金の卵プロジェクトのような、一流の文化・芸術・スポーツにふれる機会を設定するというのを入れても良いと思います。
- 岩永市長 事務局で検討をお願いします。
教育施策の柱の中に示されている「防災・安全教育」は、教育目標ではどの部分に位置付けられるのですか。
- 藤田委員 防災に関することは、学校教育だけではなく、いろいろなところでその必要性を認識している大事なことだと思いますので、位置付けについてご検討いただければと思います。
- 今井委員 「あいこうか岡山城プロジェクト」は歴史文化財課の正式事業名ですか。
- 事務局 教育振興基本計画（後期計画）に小事業名として挙げています。
- 山下教育長 今は参考までにカッコ書き部分を挙げていますが、最終は削除します。
- 藤田委員 読む人によっては、カッコ書きがあったほうがわかりやすい。誰を対象にするかにもよりますが、必要であれば具体的に説明しないとイケないこともあると思います。

○岩永市長 活発なご意見をいただきましてありがとうございました。年度内に数回予定されていますので、皆さんのご意見をいただいて、より中身の濃い内容に仕上げたいと思います。本日の議題は終了とさせていただきます。

○事務局 ありがとうございます。次回は、11月13日月曜日9時半から開催いたします。今回に引き続き、教育大綱の改正案についてご審議いただきたいと思います。それでは最後に、閉会のご挨拶を山下教育長からお願いします。

○山下教育長 本日は、甲賀市教育大綱の改定に関して、熱心なご協議を賜り誠にありがとうございました。変化の激しい社会にあって、自分自身の未来、また社会の未来も切り拓いていく力、たくましい心身と郷土への誇りを持つ人材を育てるために、市長部局と教育委員会が一体となって取り組んでいく、その基本線が確認されたと思います。

甲賀市民が、学校や園で、また生涯学習をとおして、ともに学び、ともに育ち、ともに生きること、また、さまざまな体験や優れた文化やスポーツにふれることをとおして豊かな心と健やかな体を育むことなど、知徳体にわたって豊かな成長が図られることを基本目標といたしました。また、甲賀市の自然や産業、日本遺産や国史跡をはじめとする歴史文化遺産など、甲賀市の誇るべき宝といえるものを次世代に引き継ぎ、またそれを活用していくこと、さらに甲賀市のその良さを世界に向けて発信していく、そういった力を持つ人材を育てていくこと、こういった大きな3点を教育目標とすることについても、大卒ご確認をいただきました。

今回の総合教育会議は、大綱の改定の第一ステップであります。今後は、今回確認いただきました骨子をもとに新たな大綱づくりのために詳細にわたる検討をお願いするところでもあります。この新しい大綱は、教育委員会が来年度予定しています教育振興基本計画の見直しの基盤となるものです。

今後とも委員の皆様方の熱心なご協議によりまして、良い教育大綱ができますことをお願いいたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。